

第114回医師国家試験 予想講座

出題予想の仕方

このページでは第114回医師国家試験に向けて出題予想をしていきますが、予想問題をただ知るのではなく、自分で予想できるようになることが大切です。より効率よく勉強することができます。

予想の仕方として、世間で話題になったことや医師国家試験出題基準から考える方法もありますが、出題される数は低いと考えられコスパが悪いです。それより直近の過去問を見て、過去には無かったワードがないか確認するのが良いです。問題文中や誤答選択肢にあったワードが正解選択肢になったりします。

以上を踏まえた上で直近の過去問から5つ予想してみたいと思います。

TO NEXT

今回は紙面の都合上5問のみ紹介します。他にも色々な予想問題が考えられ、回数別医師国家試験問題解説やQBオンライン (<https://qb.medilink-study.com/#/Predict>) にTO NEXTというタイトルで掲載してあります。ぜひ参考にしてみてください。

第 114 回医師国家試験に出る問題はこれだ!!

1. 認知症の脳血流 SPECT

認知症は分類により治療法が異なりますので分類が重要です。診断法のひとつに脳血流SPECTがあります。110B53-55ではLewy小体型認知症（後頭葉の血流低下）、109D2ではAlzheimer型認知症（頭頂葉、側頭葉の血流低下）が出題されました。次は**前頭側頭型認知症（前頭葉、側頭葉の血流低下）**が出題されるかもしれません。

2. qSOFA、敗血症性ショック

日常診療で敗血症はしばしば経験します。診断法は変遷があり、最近ではqSOFAが使用されるようになりました。113B11、113E12、111E60ですでに出題されていますが、重要事項ですので繰り返し問われる可能性が高いです。

qSOFAは①意識レベル低下、②呼吸数22/分以上、③収縮期血圧100mmHg以下の3項目からなり、2点以上（1項目1点）で敗血症と診断されます。適切な輸液をしても平均血圧65 mmHg以上を維持するために血管作動薬の使用が必要な状態で、かつ乳酸値2mmol/L以上を満たせば**敗血症性ショック**となります。

3. 高齢者のてんかん

てんかんは小児以外に高齢者も発症頻度が高い疾患です。高齢者のてんかんの原因として脳血管障害、脳腫瘍、外傷はイメージしやすいですが、**認知症**も原因になります。113D22のように頭部MRIで海馬の萎縮しか見られず、1年前と比較して新たな病変がみられなくてもてんかんの可能性を考える必要があります。

4. IgG4 関連疾患

IgG4関連疾患は日本が中心となって研究されていますので今後も出題される可能性が高いです。様々な臓器に病変を起こしますがメインは膵、涙腺、唾液腺です。胆管に病変を来すこともあります。肝に病変を来すことは稀です（113D65）。診断基準で重要なのは生検であり、**リンパ球およびIgG4陽性形質細胞の浸潤、花籃（はなむしろ）様線維化、閉塞性静脈炎**が主な所見です。

5. 多発性筋炎・皮膚筋炎の抗体検査

多発性筋炎・皮膚筋炎の抗体検査は抗Jo-1抗体が有名ですが、最近では色々な抗体検査が保険適応になりました。特に**抗MDA5抗体陽性は間質性肺炎、抗TIF1- γ 抗体陽性は悪性腫瘍**を合併する可能性が高いことは重要です（113F53）。

以上を参考にご自身で過去問を解くとかなり力がつくはずですよ。